

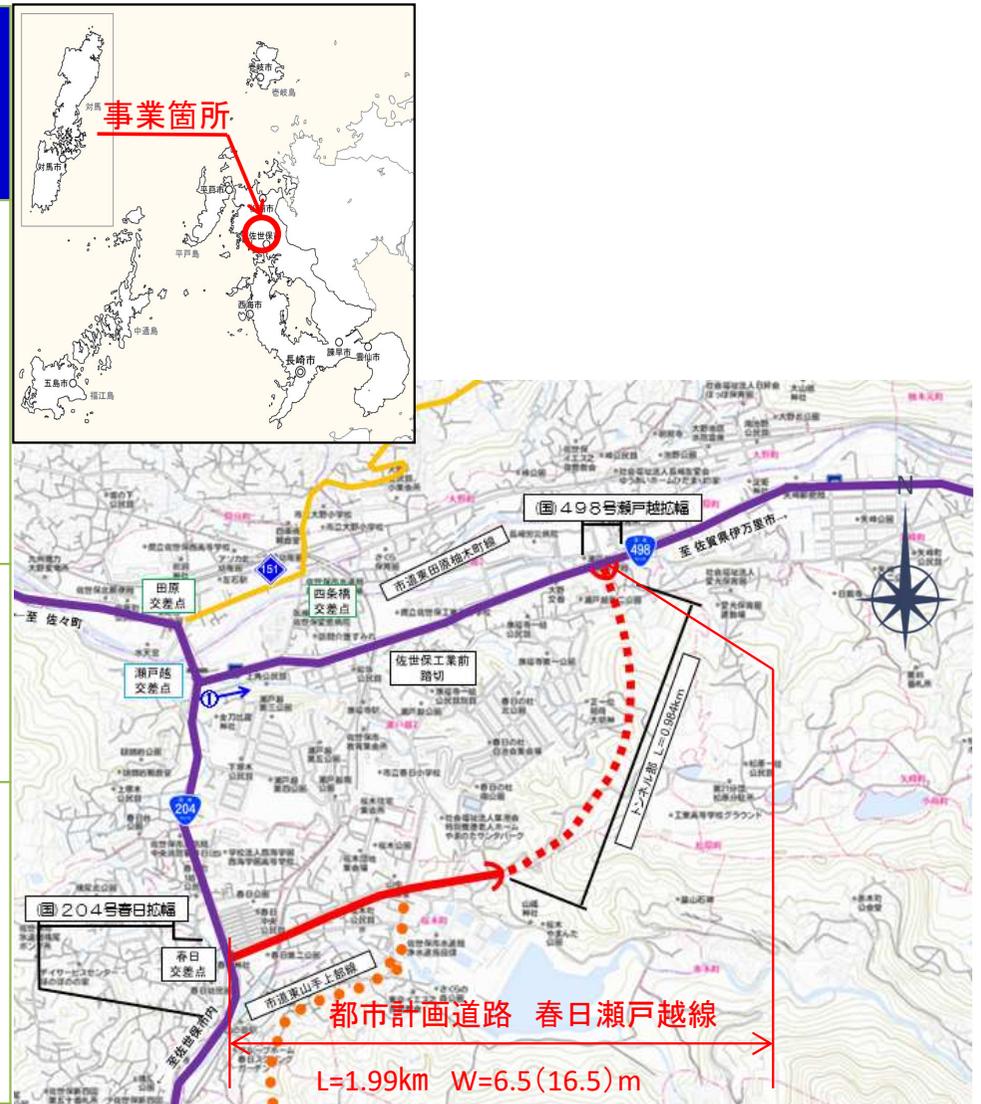
令和7年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

道建-10 都市計画道路
春日瀬戸越線

事業主体 長崎県

再評価の理由 事業採択後5年経過
(事業費・工期)



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	備考
		着工	完了			
当初 (H29新規)	-	R3	R12	75.0	1.37	【工事概要】 延長1.99km 幅員6.5(16.5)m
第1回審議 (R7年度)	事業採択後 5年経過 (事業費・工期)	R3	R14	102.0	1.20	【当初評価からの変更概要】 地質調査の結果、当初想定よりも地 山地質状態が脆弱であり、トンネルの 補助工法の追加に伴う事業費増額、工 期延長。

2. 目的・事業概要・これまでの経緯



◆目的
住宅開発や市街地の拡大等に伴う交通量の増加によって、幅員の狭い生活道路に多く通過交通車両が流れ込むことにより交通混雑や、歩道未整備による歩行者交通の安全が確保されていない事などの課題を解決するものである。

◆事業概要

計画延長等	L=1.99km
幅員	W=6.5(16.5)m
計画交通量(R22)	12,400台

◆事業経過

令和3年度	事業化
令和3年度	用地買収・補償交渉着手
令和6年度	都市計画の変更

【令和7年3月末現在】
事業進捗率 17%
(事業費ベース)
用地進捗率 20%
(面積ベース)

3. 事業の効果・必要性

現道の渋滞解消

➤ 周辺地域では5箇所が主要渋滞箇所
に指定されています。

主要渋滞箇所

国道498号

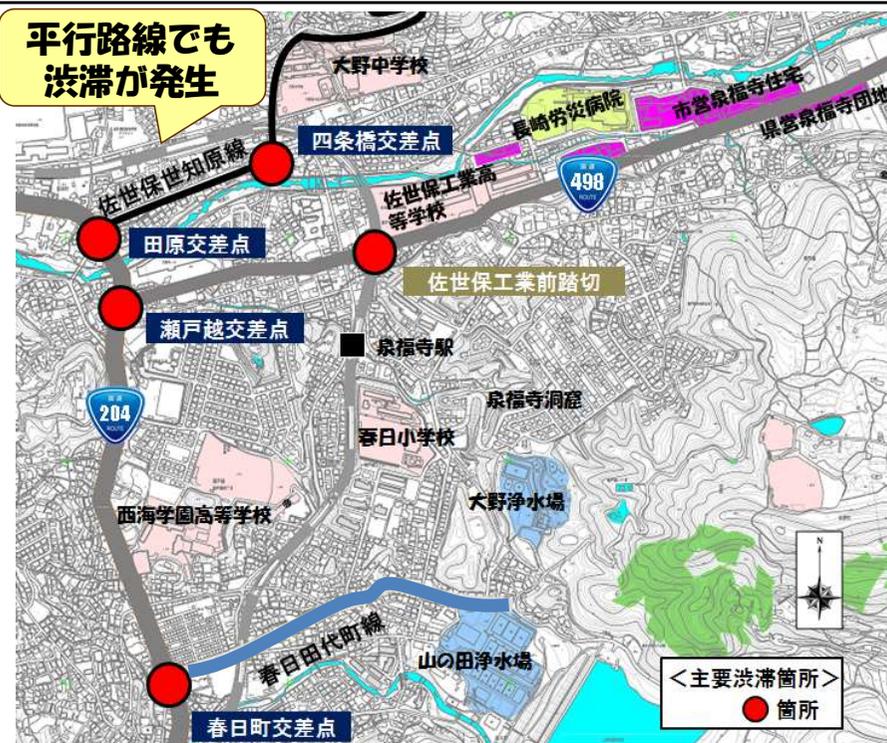
佐世保工業前踏切

国道204号

瀬戸越交差点・春日町交差点

佐世保世知原線

田原交差点・四条橋交差点



▲瀬戸越交差点 渋滞状況



▲国道204号の滞留状況

3. 事業の効果・必要性

通過交通車両の多い生活道路の安全性向上

➤ 渋滞を回避する車両が住宅地内を走行しています。

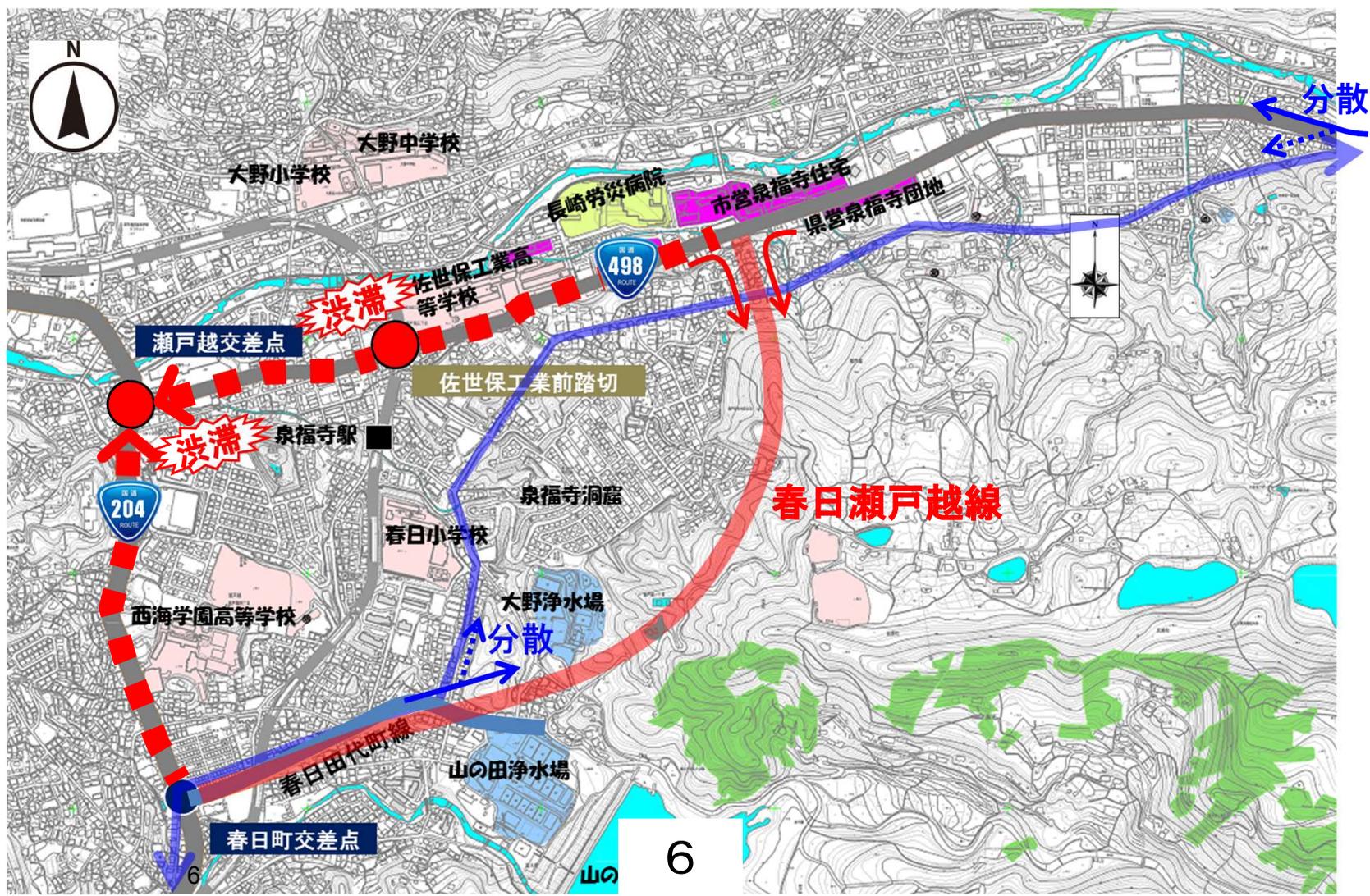


3. 事業の効果・必要性

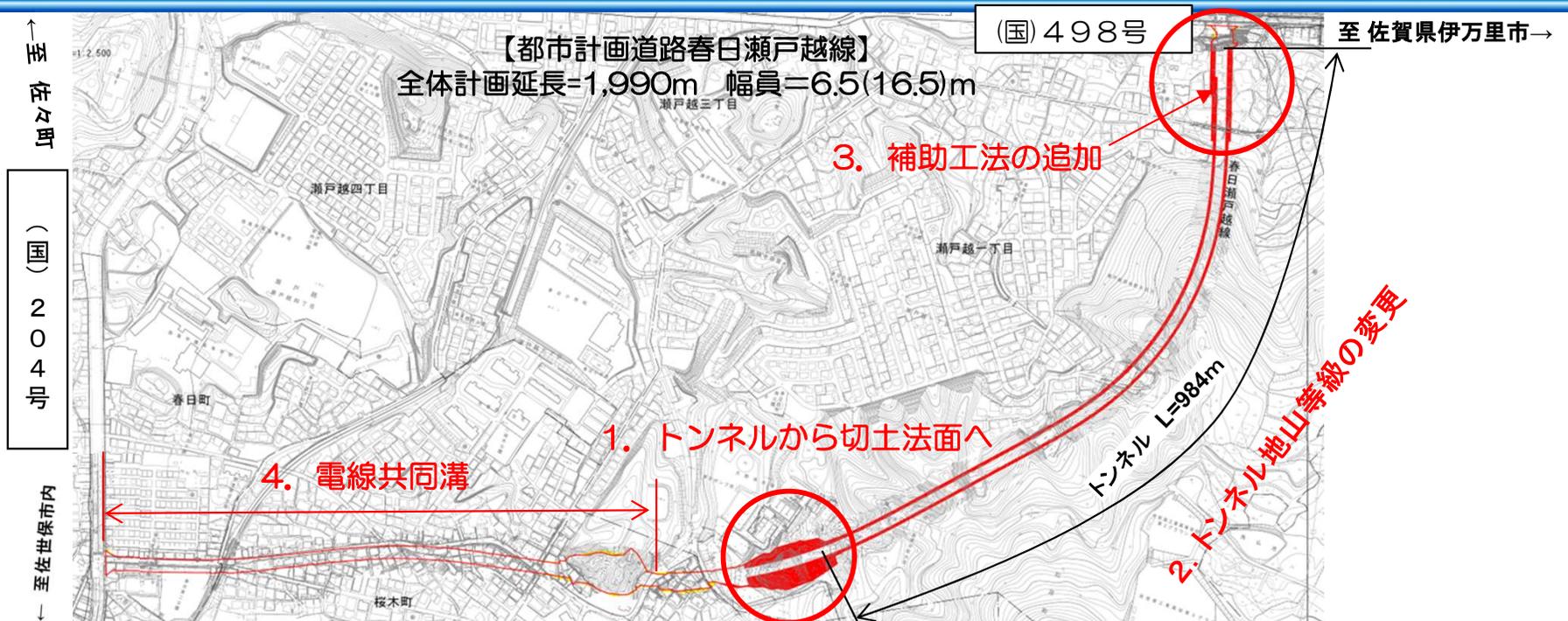
現道の交通混雑の緩和

通過交通車両の多い生活道路の安全性向上

⇒ (国) 204号と(国)498号との瀬戸越町交差点からの渋滞を回避するためのバイパスを整備することで国道の負荷が軽くなり、伊万里⇔佐世保中心部の抜け道で市道を利用していた交通が分散され生活道路(市道)の交通量も減る

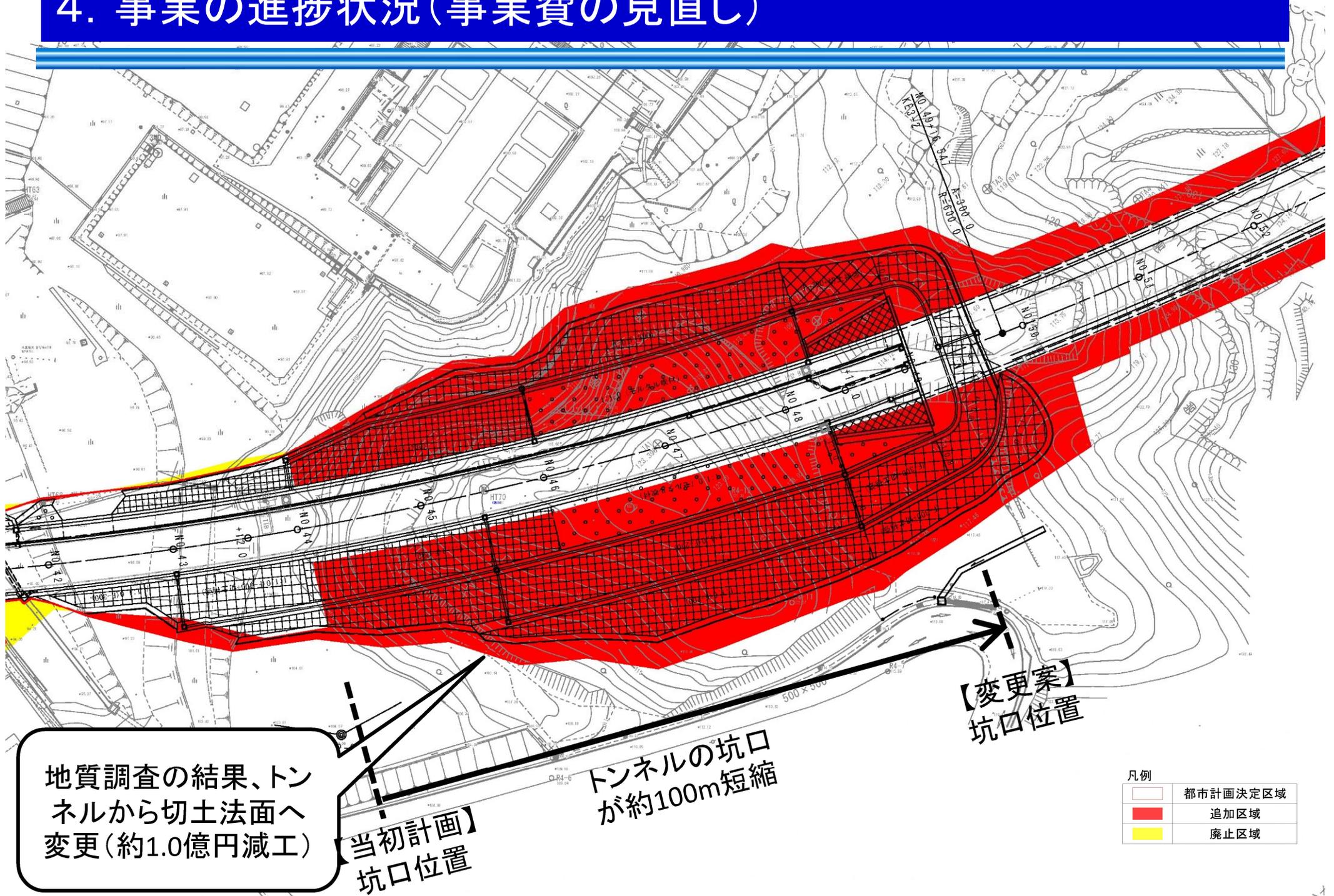


4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)



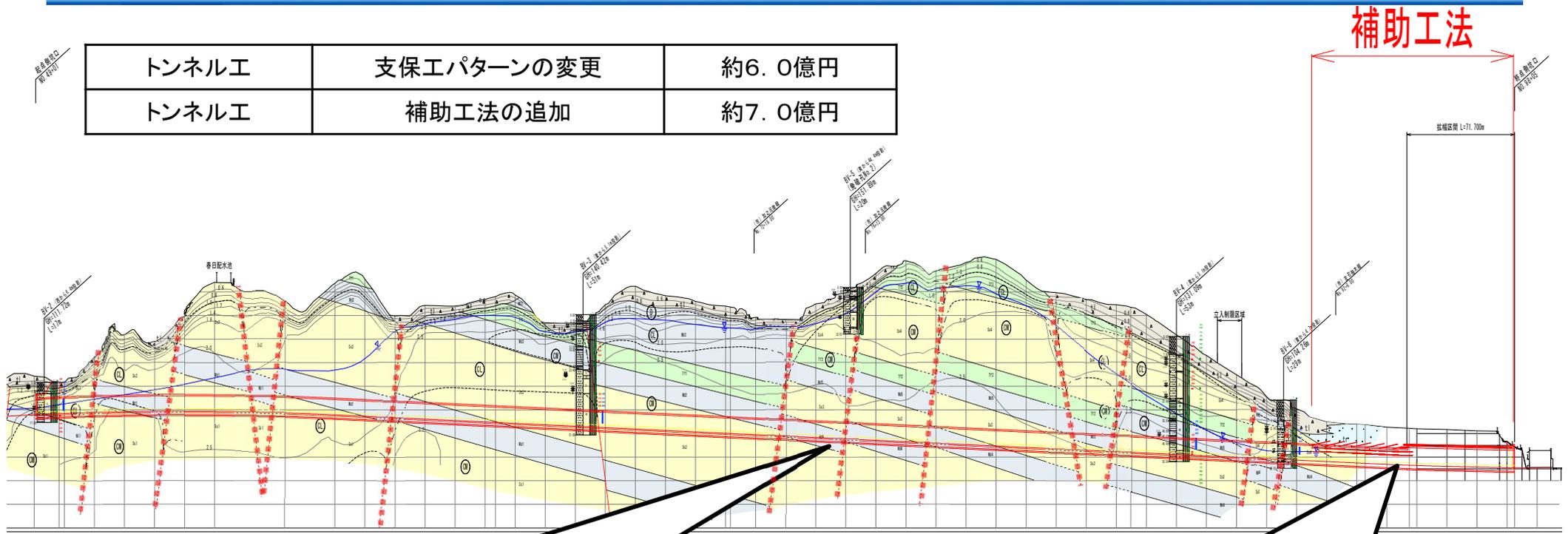
事業費増減の内容			増減額	主な増減額理由
	工種	内容		
1	切土法面	トンネルから切土法面へ変更	約 -1.0億円	地質調査の結果、トンネルより掘削による整備の方が安価であるため、切土法面へ変更
2	トンネル工	支保工パターンの変更	約6.0億円	地質調査の結果、地山地質状態が脆弱であり、支保工パターンをCからDへ変更
3	トンネル工	補助工法の追加	約7.0億円	地質調査の結果、トンネル補助工法を追加
4	電線共同溝	電線地中化	約3.0億円	無電柱化推進計画の合意により無電柱化を実施するため。
5	用地補償費	用地補償	約5.0億円	用地補償費の詳細を調査した結果、増額となった。
6	その他	労務単価・物価高騰	約7.0億円	労務単価及び資機材等の物価上昇
	計		約 27.0億円	

4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)



4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

トンネル工	支保工パターンの変更	約6.0億円
トンネル工	補助工法の追加	約7.0億円



地質調査の結果、地山地質が脆弱なことが判明したことから、トンネル工の支保工パターンをCからDに変更

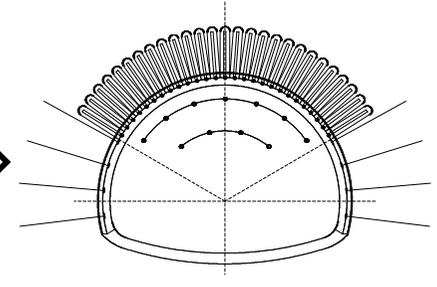
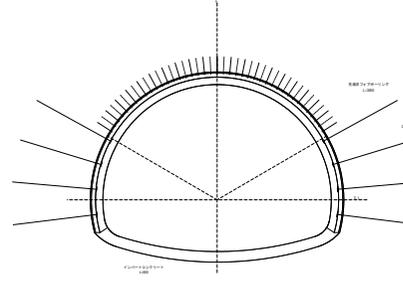
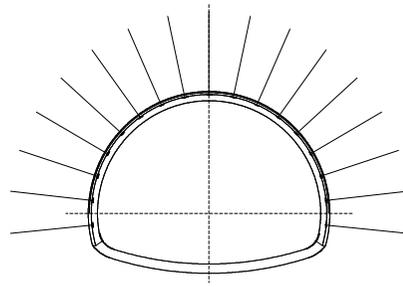
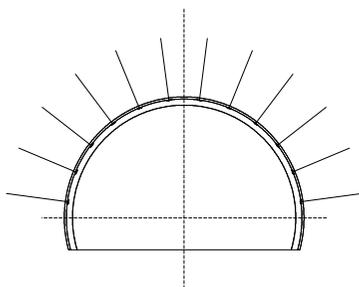
地質調査の結果及び土被りが小さいことから、トンネル補助工法を追加

C II -b

D I -b

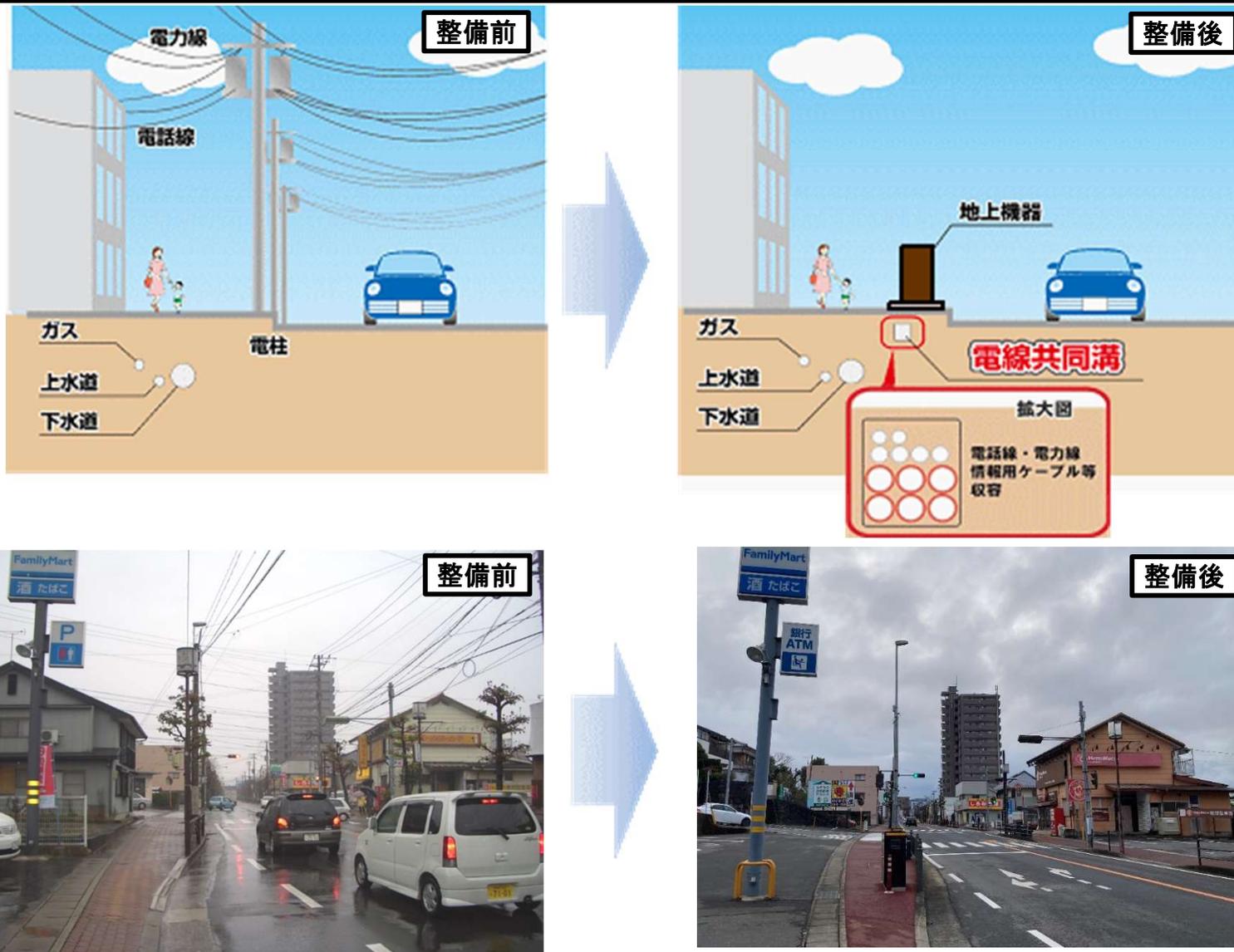
補助工法無し

補助工法あり



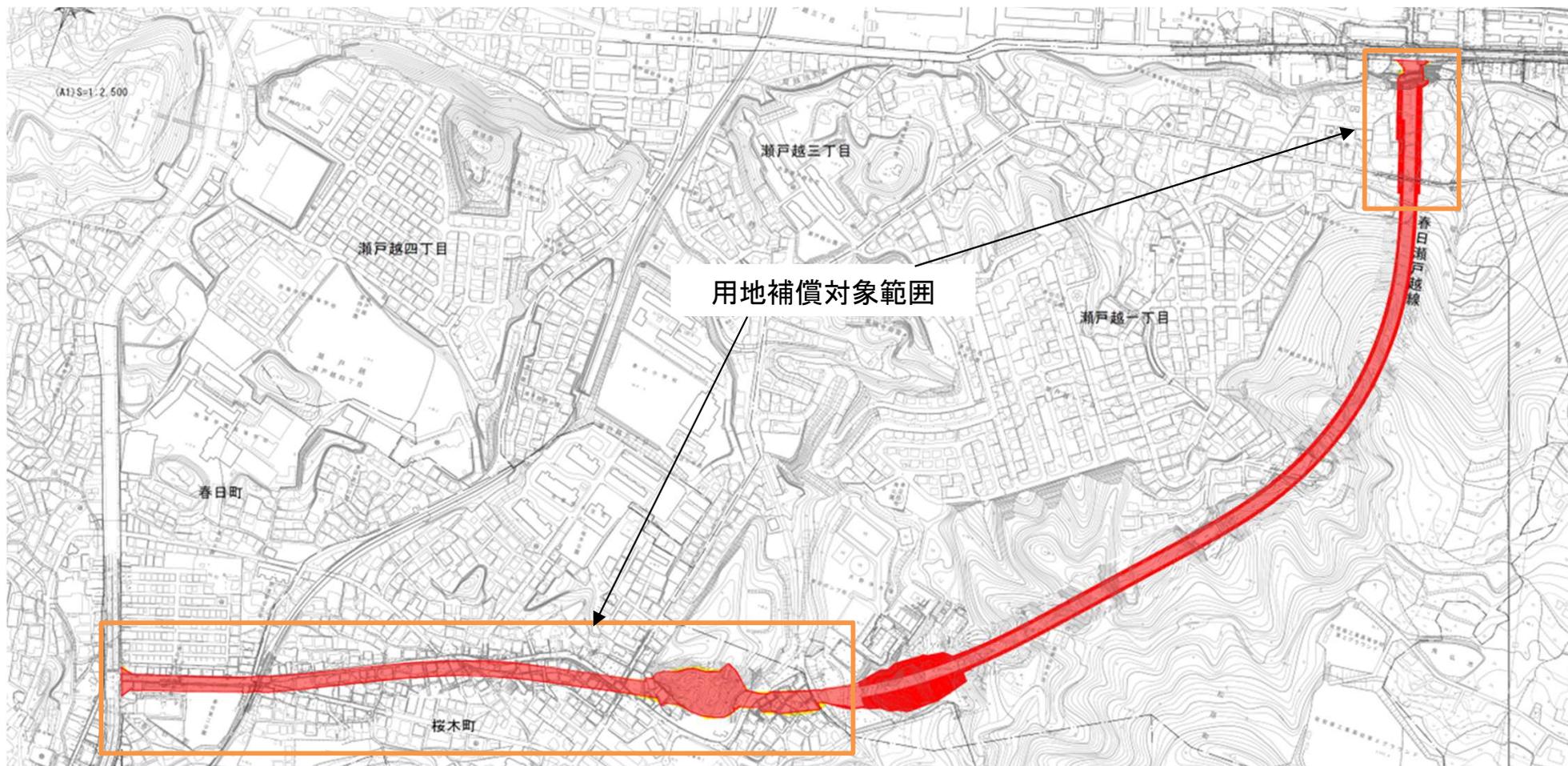
4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

第8期無電柱化推進計画の合意により、計画範囲内の無電柱化を実施するため、約3.0億円の増工となる。



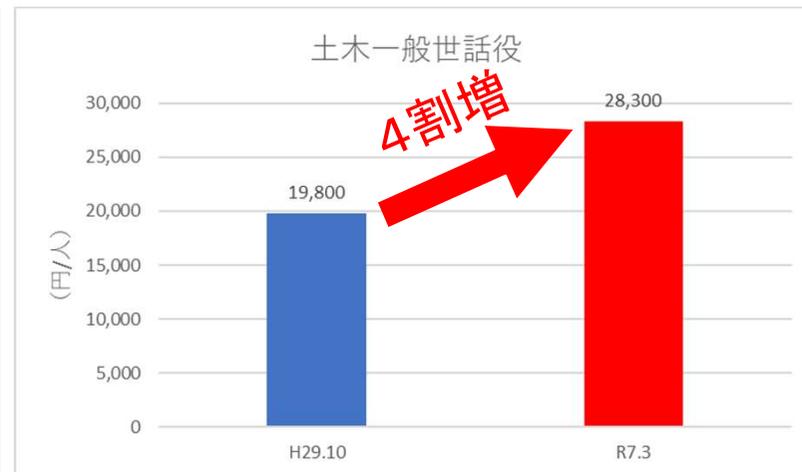
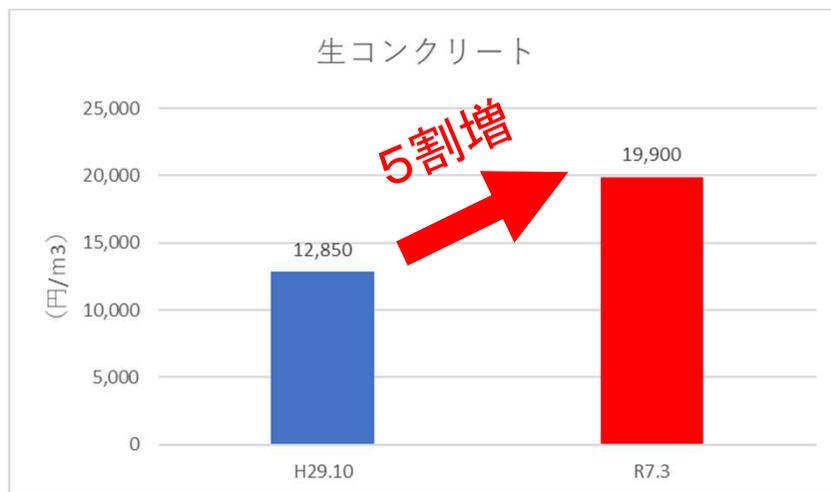
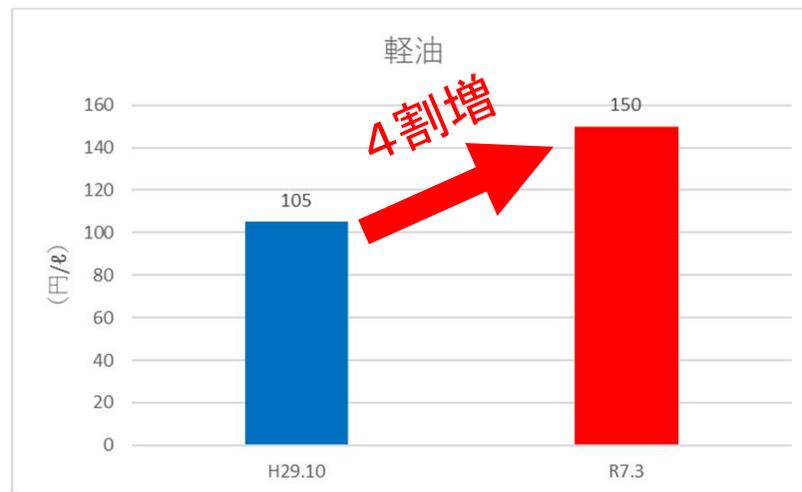
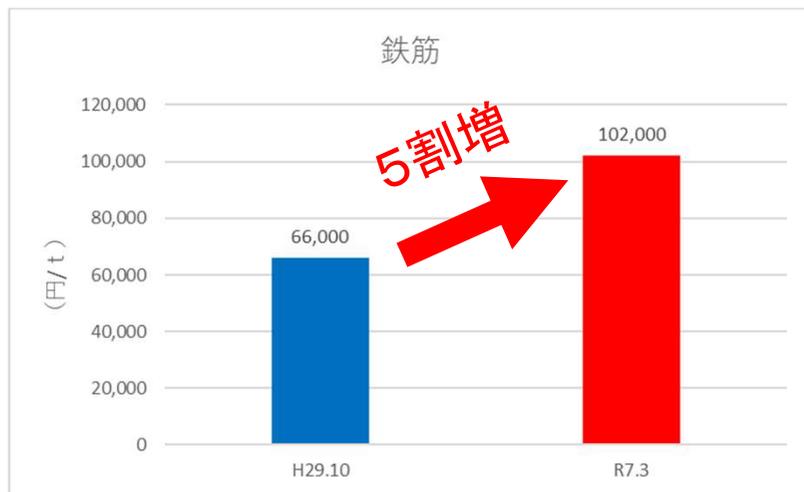
4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

補償物件の精査、物件調査の結果、用地補償費を約5.0億円増工する。



4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

社会情勢の変化による資材・労務費の単価上昇、消費税率8%から10%の増税によって、約7.0億円の増額。



4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

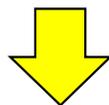
【完了工期】R12(前回)→R14(今回)

下記の理由により、事業期間の見直しを行う。

- ・代替地詮索等による用地取得遅延のため、期間の延長。
- ・トンネル地山等級の変更及び、トンネル補助工法の追加によりトンネル工事期間の延長。

(前回)

		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
測量調査設計		■	■								
用地・補償		■	■	■	■	■	■				
工事	道路改良				■	■	■				
	橋梁				■						
	トンネル							■	■	■	
	舗装										■



(今回)

		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
測量調査設計		■	■	■				■					
用地・補償		■	■	■	■	■	■	■					
工事	道路改良					■	■	■					
	橋梁						■		■	■	■	■	
	トンネル								■	■	■	■	
	舗装												■

用地・補償(約1年)

トンネル等級、補助工法の追加(約1年)

5. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (平成29年度)	今回評価 (令和7年度)
残事業	—	1.54 = 110.0億円 / 71.0億円
全事業	1.37 = 77.0億円 / 56.0億円	1.20 = 110.0億円 / 91.0億円

[費用]

- ・道路整備に要する事業費、道路維持管理に要する費用

[便益]

- ・走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少便益

[プラス要因]

- ・費用便益分析マニュアルの改定
→原単位(価格)の増加

[マイナス要因]

- ・事業費の増
- ・工期の延長

◆ B/Cでは計測できない効果

6. 対応方針(原案)

- ◆ 当事業は、市街地内の交通渋滞を緩和するとともに、安全な交通空間を整備し、市街地の安全性向上や環境改善を図るものである。
- ◆ 事業進捗率は事業費ベースで17%[17.7億/102億]であり、用地進捗率は20%となっている。(令和7年3月末現在)
- ◆ 「佐世保市」から整備促進を要望されている。
- ◆ 事業費の増額、期間の延長はあるものの、費用対効果は見込まれる。

